



平成21年5月21日

各 位

会 社 名 関東電化工業株式会社
代表者名 代表取締役社長 富田芳男
(コード番号 4047 東証第1部)
問合せ先 人事総務部専任課長 徳升聡司
(TEL. 03 - 3216 - 4561)


平成21年3月期 決算説明会資料

当社では、本日5月21日、アナリスト向けに平成21年3月期 決算説明会を開催いたします。

平成21年3月期決算の概要、今後の業績見通しについて説明いたしますが、その資料を添付いたします。

以 上

平成21年3月期 決算説明会

 関東電化工業株式会社
平成21年5月21日

1

説明内容

1. 21/3決算の概要
2. 業績の見通し・今後の動向

※増減率を除き、表示単位未満は切り捨てて表示

関東電化グループ(連結子会社)

(単位:百万円)

	資本金	出資比率 %	H21/3 個別売上高	対前期 増減	主要な事業内容
関東興産(株)	10	100.0	5,566	△46	化学工業薬品の販売、保険代理店
(株)上備製作所	120	49.4	5,194	△249	化学工業用設備の製作・加工・修理
森下弁柄工業(株)	27	52.9	941	△13	鉄酸化物の製造販売
関東電化KOREA(株)	2 億ウォン	90.0	8,807	414	フッ素系製品の販売
台湾関東電化股份有限公司	7 百万NTドル	100.0	1,705	△131	フッ素系製品の販売

合計	22,216	△27
----	--------	-----

関東電化工業株式会社

3

事業の種類別セグメント

名称		内容
基礎化学 品事業	無機製品	か性ソーダ、塩酸、次亜塩素酸ソーダ、塩化アルミニウム等
	有機製品	トリクロールエチレン、パークロールエチレン、塩化ピリデン、シクロヘキサノン、シクロヘキサン等
精密化学 品事業	鉄系製品	キャリアー、マグネタイト、顔料等
	フッ素系製品	六フッ化硫黄、四フッ化炭素、三フッ化メタン、六フッ化エタン、三フッ化窒素、ヘキサフルオロ-1,3-ブタジエン、八フッ化プロパン、六フッ化タンゲストン、四フッ化ケイ素、三フッ化塩素、八フッ化シクロブタン、五フッ化ヨウ素、六フッ化リン酸リチウム、フルオロエチレンカーボネート、液晶材料、排ガス処理装置(エフトール)等
化学設備関連事業 その他事業		工場プラント建設、工場設備保全工事、保険代理店業務等

関東電化工業株式会社

4

連結・個別損益の概要

(単位:億円)

連結決算					個別決算			
	H20/3 (倍率)	H21/3 (倍率)	増減	増減率 (%)	H20/3	H21/3	増減	増減率 (%)
売上高	441 (1.13)	400 (1.21)	△41	△9.4	390	330	△59	△15.2
営業利益	57 (1.18)	19 (3.86)	△38	△66.0	48	5	△43	△89.5
経常利益	53 (1.16)	14 (7.28)	△38	△72.9	46	1	△44	△95.7
当期純利益	32 (1.12)	1 (—)	△31	△94.7	29	△3	△32	—

関東電化工業株式会社

5

連結決算のポイント

(単位:億円)

	H20/3	H21/3	差額
売上高	441	400	△41
営業利益	57	19	△38
当期純利益	32	1	△31

(1) 売上高減少(△41億円)

- ・基礎化学品事業部門は、販売数量の減少と撤退製品(平成19年9月)により減収(△15億円)
- ・精密化学品事業部門は、販売数量の減少と価格低下により減収(△34億円)
- ・化学設備関連・その他事業無門は好調に推移し増収(+8億円)

(2) 営業利益減少(△38億円)

- ・基礎化学品事業部門は、棚卸資産評価損により、減益(△0.3億円)
- ・精密化学品事業部門は、売上高の減少に加え、棚卸資産評価損と減価償却費等が増加し減益(△41億円)

関東電化工業株式会社

6

基礎化学品事業部門

(単位:億円)

	H20/3	H21/3	差額
売上高	112	97	△15
営業利益	△1.0	△1.4	△0.3

- ・売上高は、原燃料価格高騰分の価格転嫁等を行ったものの、販売数量の減少や、シクロヘキシルアミン等昨年度に撤退製品があったため、前期に比べ減収となった。
- ・営業利益は、棚卸資産評価損(1.2億円)の計上等により、前期に比べ減益となった。

関東電化工業株式会社

7

精密化学品事業部門

(単位:億円)

	H20/3	H21/3	差額
売上高	305	270	△34
営業利益	58	17	△41

- ・三フッ化窒素は、半導体・液晶向けの販売数量が増加したものの、販売価格が低下し前期に比べ減収となった。
- ・ヘキサフルオロ-1,3-ブタジエンは、半導体の微細化を受け販売数量は増加したものの、販売価格が低下し、前期に比べ減収となった。
- ・六フッ化タングステンは、販売数量の減少と販売価格の低下により、前期に比べ減収となった。
- ・その他ガスや電池材料は、販売数量の減少により、前期に比べ減収となった。
- ・営業利益は、売上高の減少に棚卸資産評価損(6.4億円)の計上等も加わり、前期に比べ減益となった。

関東電化工業株式会社

8

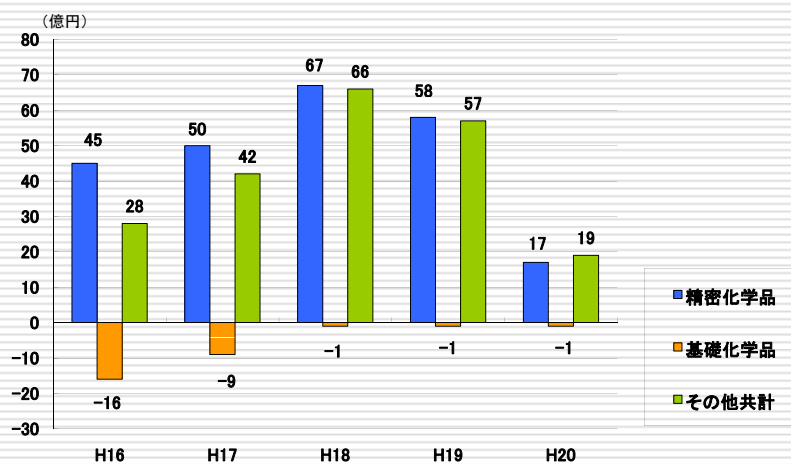
化学設備関連事業・その他事業部門

(単位:億円)

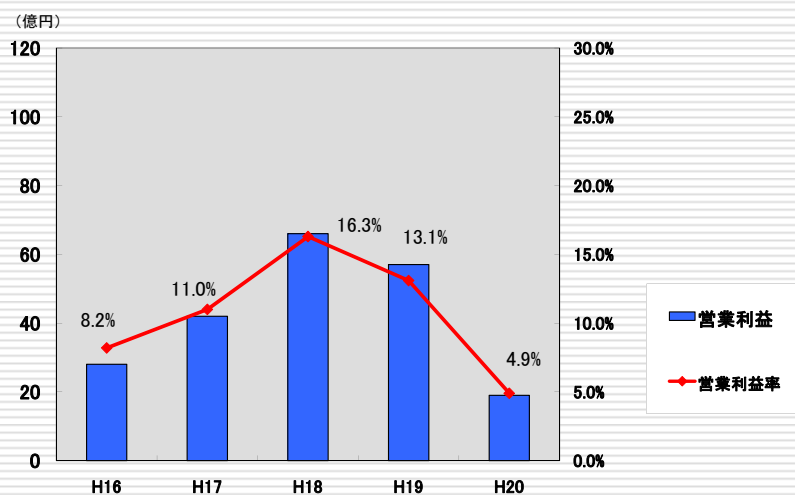
	H20/3	H21/3	差額
売上高	23	32	8
営業利益	3.0	3.8	0.8

・当社グループ以外のスポット的な大型工事があったため、増収増益となった。

セグメント別営業利益の推移(連結)



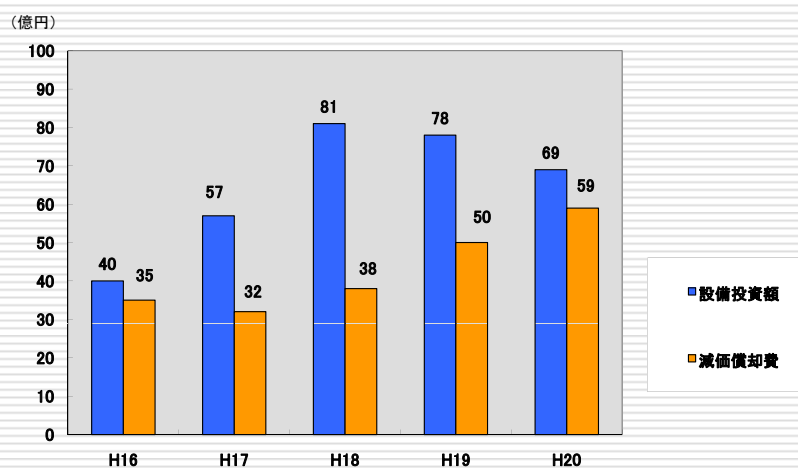
営業利益と営業利益率の推移(連結)



関東電化工業株式会社

11

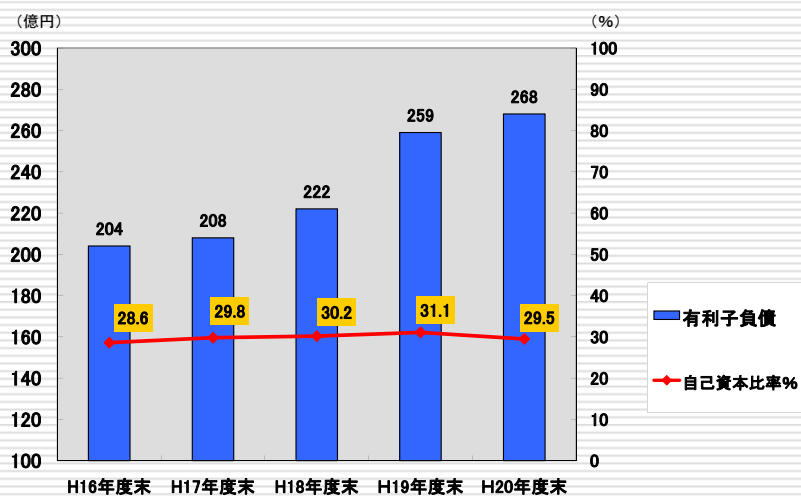
設備投資・減価償却費の推移(連結)



関東電化工業株式会社

12

有利子負債・自己資本比率の推移(連結)



関東電化工業株式会社

13

説明内容

1. 21/3決算の概要
2. 業績の見通し・今後の動向

関東電化工業株式会社

14

セグメント別業績予想(連結)

(単位:億円)

	売上高			営業利益		
	H20	H21	差額	H20	H21	差額
基礎	97	90	△7	△1	5	6
精密	270	255	△15	17	7	△10
その他	32	25	△7	※3	※0	※△3
合計	400	370	△30	19	12	△7

設備投資	69	20	△49
減価償却	59	58	△1
研究開発費	12	11	△1

※その他には、化学設備関連事業・その他事業、および連結調整を含みます。

※為替レート見込:90円/\$

関東電化工業株式会社

15

設備投資の状況・今後の計画

□ 半導体・液晶用特殊ガスの設備増強・拡販

- ① フッ酸電解能力増強 (H21.1)
- ② 三フッ化窒素設備増強 (H21.1 2,150t→2,700t)
- ③ CIF3設備増強 (H20.8 30t→40t)
- ④ COF2拡大設備設置 (H20.3 →100t)

□ 電池材料の設備増強・拡販

- ① 六フッ化リン酸リチウム設備増強 (H20.10 620t→950t)
- ② FEC設備増強 (H20.7 60t→100t)

□ 今後の計画

- ・平成21年度は、新規投資を極力絞り込むなかで、新規製品の投資を行う。
- ・これまでの設備増強により、今後の需要回復に対応可能である。
- ・高純度塩素ガス製造設備、塩化水素製造設備については検討中。

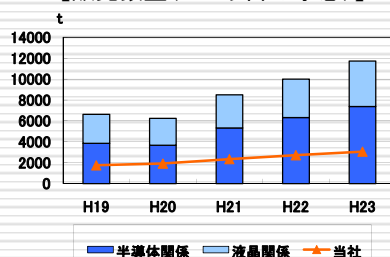
関東電化工業株式会社

16

—主な製品の見通し— 三フッ化窒素(NF3)

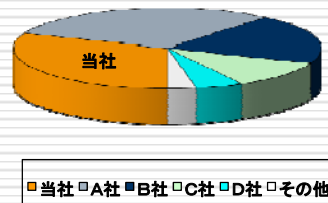
- 半導体・液晶製造プラズマCVD装置用のチャンバークリーニングガス。
- 今後の半導体・液晶の生産量回復に伴い、三フッ化窒素の需要は増加する。また、太陽電池向けの需要も期待される。
- 需要増加に対応するため、製造能力を H21年1月に2,700t/年に増強した。

【販売数量(H21以降は予想)】



【現在のシェア予想】

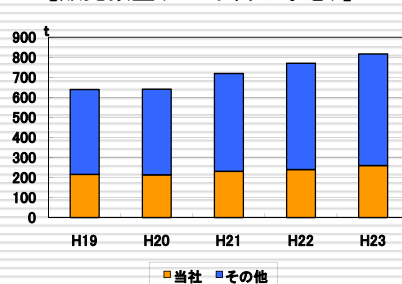
当社シェアは約30%



—主な製品の見通し— 六フッ化タングステン(WF6)

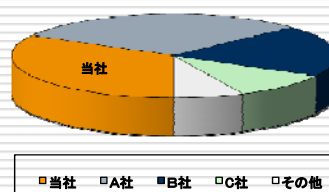
- 半導体用配線材料。
- 今後の半導体の生産量回復に伴い、需要は増加する。
- H20年3月に製造能力を300t/年に増強した。

【販売数量(H21以降は予想)】



【現在のシェア予想】

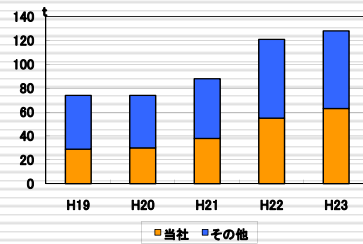
当社シェアは約3分の1



—主な製品の見通し—ヘキサフルオロ-1,3-ブタジエン(C4F6)

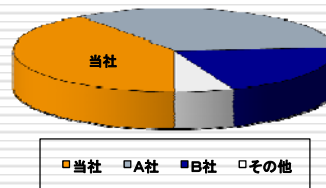
- 半導体酸化膜微細エッチング用ガス。
- 特徴：高アスペクト比エッチングが可能。短い大気寿命。
- 微細加工の伸展に伴い、需要が拡大している。
- 需要に対応するため、H19年11月に製造能力を50t/年に増強した。

【販売数量(H21以降は予想)】



【現在のシェア予想】

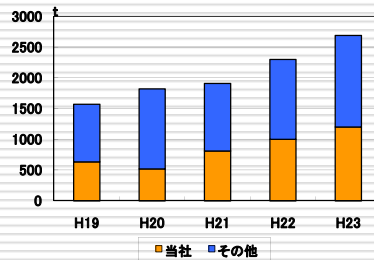
当社シェアは約40%



—主な製品の見通し—六フッ化リン酸リチウム(LiPF6)

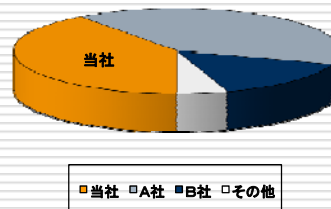
- リチウムイオン二次電池の電解液の材料。
- 携帯電話・ノートPC向け以外の用途先にも需要が拡大している。
- 今後、EV・HEV車載用LiBの需要にも対応を進める。
- H20年10月に製造能力を950t/年に増強した。
- さらに、1,300t/年設備に向けて準備中。

【販売数量(H21以降は予想)】



【現在のシェア予想】

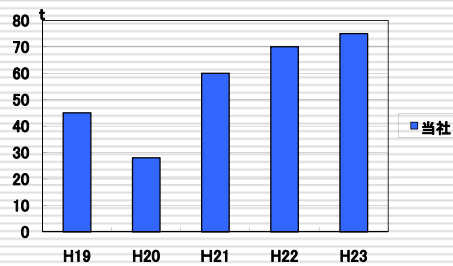
当社シェアは約40%



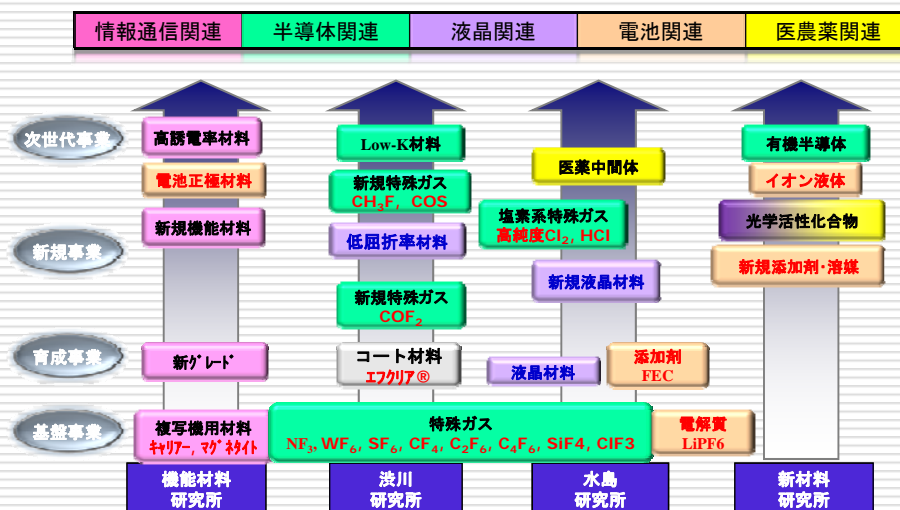
—主な製品の見通し— FEC(フルオロエチレンカーボネート)

- リチウムイオン二次電池の電解液の添加剤。
- 性能:リチウムイオン二次電池の長寿命化・低温特性の向上。
- H20年7月に製造能力を100t/年に増強した。

【販売数量(H21以降は予想)】



当社の目指す事業方向



新規製品開発

- 環境対応のクリーニングガス「フッ化カルボニル(COF₂)」(温暖化係数がほぼ1)
- 半導体微細加工用の新規エッチングガス「モノフルオロメタン(CH₃F)」と「硫化カルボニル(COS)」
- 半導体用高純度塩素、塩化水素
- 電池材料(添加剤、イオン液体)
- 有機半導体材料、新規液晶材料、医農薬中間体
- 10年後を見据えたコア技術の開発。



キラリと光る創造的開発型企业へ

23

注意事項

- 本資料は、金融商品取引法等のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 本資料の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後さまざまな要因によって予想数値と異なります。